

# 「がん総合相談に携わる者に対する 研修事業」について

日本サイコオンコロジー学会

国立がん研究センター 先端医療開発センター  
精神腫瘍学開発分野

小川朝生

# 先行事業

## ピア・サポート研修の研修プログラムについて

平成23～25年度に公益財団法人日本対がん協会への委託事業として「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」を実施。委員会を設置し、ピア・サポートに必要な相談員の基本的なスキルを身につけるための研修プログラムを策定の上、説明会の開催やホームページ等により研修プログラムの周知を図った。

### ○研修プログラムの概要

#### 「がんピアサポート編～これからピアサポートをはじめる人へ」

- ・ピア・サポートの定義
- ・ピア・サポートの重要性と定義
- ・ピア・サポーターの活動内容、活動場所
- ・話を聞く際の配慮（服装、言葉遣い、個人情報保護など）
- ・ピア・サポートに役立つ会話のヒント
- ・お金や日常生活、仕事に関する悩みへの対応
- ・医学的な基礎知識



研修テキスト



模擬相談DVD



研修の手引き

#### 「がんサロン編～より良いグループ・サポートを進めるために」

- ・がんサロンの定義と内容
- ・がんサロンの重要性と意義
- ・がんサロンの開催
- ・進行役や運営者が配慮すること
- ・がんサロンで起こり得る事例と対応のヒント



# がん対策に関する行政評価・監視結果報告書 (平成28年9月 総務省)

## 【調査結果】

- 今回、当省が調査対象17都道府県における平成27年度のピア・サポート研修の実施状況及び51拠点病院におけるピア・サポーターの活動状況について調査した結果、以下のとおり、都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況や、ピア・サポート研修は実施されているものの、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況がみられた。

# 同報告書 未実施の都道府県

## 未実施の理由

- ピア・サポートの実施主体となり得る患者団体の活動が活発ではない
- 患者会活動を通じて、各患者会のそれぞれの特性をいかした患者支援に取り組む方針であり、研修の実施は必要ない

これらの県の7患者団体のうち5団体からは、都道府県によるピア・サポート研修の開催や患者団体が開催する際の支援等を求める意見があり、研修に対するニーズがある状況がみられた

# 同報告書 活動実績がない拠点病院

## 実績がない理由

- 現状では、国が公的にピア・サポーターを認定する仕組みがなく、研修制度が確立していないと考えられ、各団体のピア・サポーターがどの程度の相談対応力があるのかよく分からないため、ピア・サポーターを受け入れる状況ではない
- 患者との間でトラブルが発生した際の対処方針ができていない

この背景には、ピア・サポート自体は、基本的にがん患者及びその家族の自主性や主体性を尊重すべきものであるが、それを重んじる余り、ピア・サポート活動の普及が阻害されている側面もあるものと考えられる。

# 同報告書

- このようなことから、患者団体からは、ピア・サポート研修の質を担保するため、緩和ケア研修開催指針に準じたピア・サポート研修の開催指針の策定などを求める意見がある。

# がん対策推進基本計画（第3期）

- ピア・サポートについては、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行う。ピア・サポートが普及しない原因を分析した上で、研修内容の見直しや、ピア・サポートの普及を図る。

## 【個別目標】

- 国は、ピア・サポートの実態調査、効果検証を行った上で、3年以内に研修内容を見直し、ピア・サポートの普及に取り組む。

# ピアサポートとは

- ピアサポートとは、  
同じ問題や状況を持つ人が、情緒的に支え合い、その問題に適切  
に対応するための知識を共有していく関係  
(Cancer Care For the Whole Patient 2008)
- 言葉では
  - Peer support
  - Self support
  - Mutual supportなどがあるが、ほぼ同じ内容を指している



# ピアサポートの活動の形態

## グループ

- ・セルフヘルプグループ
- ・サポートグループ（医療者と共同で実施）



## インターネット上でのグループ活動



## 個別の対応

- ・一対一（一対二）
- ・治療体験の語り手（相談支援センター）



## 教育研修での語り手

- ・がん教育
- ・緩和ケア研修



# ピアサポーター

- 「体験の専門家」  
自らの体験を他者が活かせる形で提供することにより、  
患者・家族の情緒的な支援、リテラシーの向上に貢献
- 相談支援ではない  
相談対応はしない、問題を解決する責任はない
- 医療的な内容は扱わない
- 患者・家族、医療者ではない、相談員でもない独自のスタンス

# しばしばある誤解

他の患者さんの役に立ちたい  
はげましたい



はげます場ではありません

あやしい医療的な指導をする  
のではないかと



医療の内容は踏み込みません  
相談ではありません

私のありがたい話を聞きなさい



体験談を披露する場ではありません

# 患者会、ピアサポート、がんサロン

- 患者会  
患者・家族の立場で、交流を目的に作られた団体
- ピアサポート：  
複雑な問題に向き合う患者が体験を安心して話合うことを通して  
情緒的な支援と情報の共有を図ることを目的にした場  
ルールを遵守することが重要
- がんサロン：  
日本独自の言葉。定義はない。  
患者家族の交流の場を意味して使われている。  
おそらく患者教室やピアサポートを含めた総称のよう

# ピアサポートの役割

- ヘルス・リテラシーの向上
- 体験の共有： 体験を語ることによる乗り越えてきた姿を示す
- 情報提供： 病院の利用の仕方、支援の利用の仕方を活かした形で示す

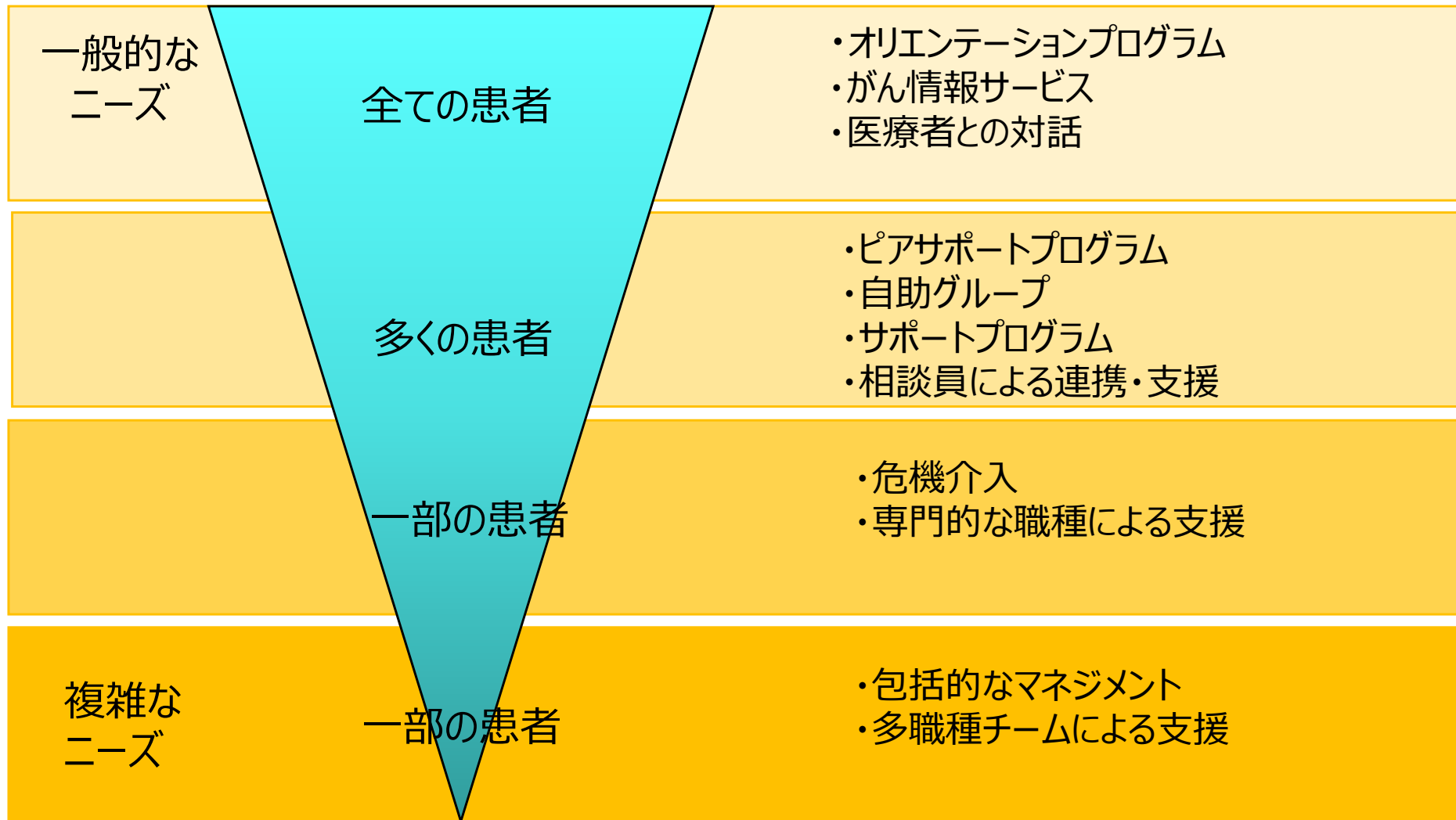
注： ピアサポート ≠ 相談支援

- 役割は「情報の提供」であり指示や助言ではない→ 「語り方」が大事
- 医療に関する情報には関与しない
- 情報を提供する役割で「促す」相談ではない

# 個人的な経験の開示


- ピアサポーターの専門性とは、自らの経験を適切に開示することにより、利用者のリカバリーに寄与すること
- 適切な開示：  
話しすぎれば利用者の言葉を奪う  
勇気づけようと経験を語れば自慢しているにとらえられる
- いつ、どのように自らのリカバリーストーリーを語り、個人的経験を活用するのかについて考えることが必要  
⇒これがトレーニング


# 患者・家族のためのサポートの提供体制




# サポートグループの対象と推奨される運営

	社会的・情緒的			教育的・情報提供		
	対面	オンライン	電話	対面	オンライン	電話
診断後 ファーストラ イン治療前	Yellow	Yellow	Yellow	Green	Green	Green
治療中	Red	Red	Red	Yellow	Yellow	Yellow
治療後 寛解時期	Yellow	Yellow	Yellow	Green	Green	Green
再発	Red	Red	Red	Yellow	Yellow	Yellow
進行期 終末期	Red	Red	Red	Red	Red	Red
混合型グルー プ (除終末期)	Yellow	Yellow	Yellow	Yellow	Yellow	Yellow
混合型グルー プ (含終末期)	Red	Red	Red	Red	Red	Red

 ピアで運営可能  
専門家の支援が望ましい

 ピアで運営可能  
専門家のバックアップ体制  
事前準備を推奨

 専門家との協働を強く推奨

(Cancer support groups: a guide to setting up peer facilitated supports)



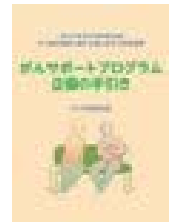
# 厚生労働省委託事業(令和元年度)

## 1.都道府県、地域統括相談支援センターへの支援

- 各都道府県、地域統括相談支援センターがピアサポートの養成や運営等が実施できる体制を整えられるよう支援
- 県との意見交換会、医療者向け研修会を実施。

## 2.ピアサポーター養成研修会の実施

- 県、地域統括相談支援センターと共催でピアサポーター養成研修会を実施
- ピアサポーター養成研修会を実施するための事柄をまとめた「研修会開催マニュアル」を作成。



## 3.ホームページでの情報提供

- 「ピアサポーター養成テキスト」ピアサポーター養成研修会用スライドの公開
- 事業周知
- 自治体へテキスト、DVD等の資材を提供。

## 4.「がんサポートプログラム企画の手引き」の作成

- 行政・医療機関向けにサポートグループに関する情報提供資材を作成。

# 自治体郵送調査

自治体郵送調査：

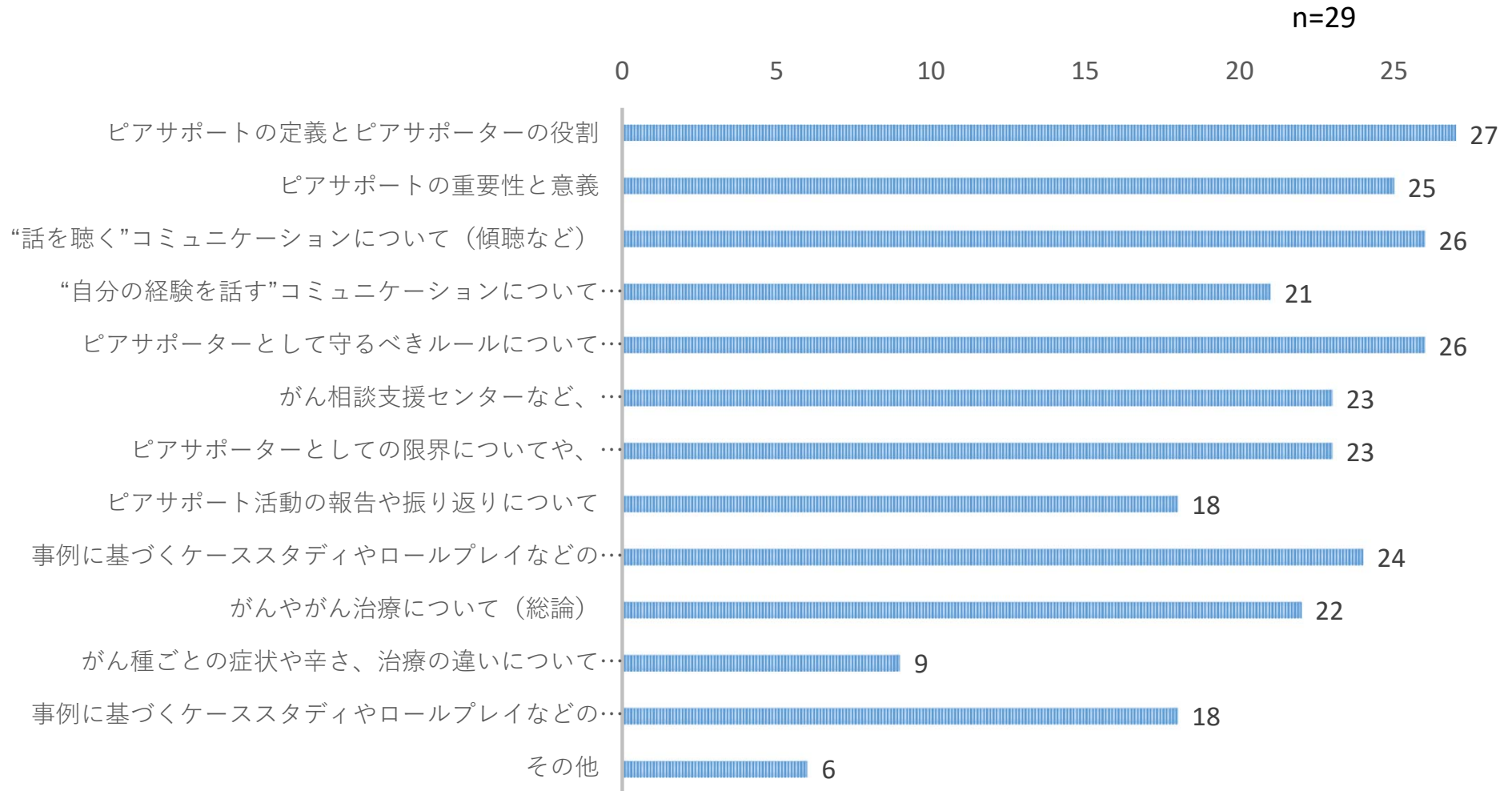
- 調査方法：自記式アンケート調査（郵送）
- 調査実施期間：2018年12月
- 対象自治体数：全都道府県47カ所
- 回答数：43（回答率91.5%）

# 都道府県のピアサポートに関する取り組みの現状

- ピアサポートに関する取り組みを実施： 35都道府県
  - ピアサポートの養成： 29都道府県  
(21都道府県が他機関に委託)
  - フォローアップ研修： 23都道府県  
(15都道府県が他機関に委託)
  - ピアサポートの情報の把握・管理： 13都道府県  
(修了後の実践や面接等の条件設定  
5都道府県)
  - ピアサポートの実施： 19都道府県  
(15都道府県が他機関に委託)

1. 他機関への委託をしている都道府県が半数以上
2. 研修後の実施、管理まで行っている都道府県は少ない

# ピアサポートの研修内容



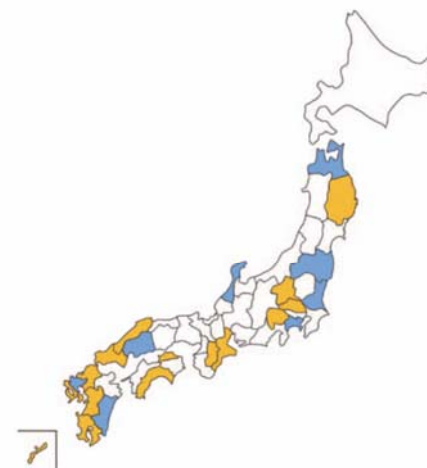
# 県との意見交換

- 2019年6月に厚労省がん疾病対策課から各都道府県のがん対策主管課に「がん総合相談に携わる者に対する研修支援を希望する都道府県の募集について」を事務連絡。
- それに対し支援希望のあった20県に対し支援を行った。
- うち15県へは意見交換会、医療従事者向け研修会を実施(2019年8月～2020年3月)。

意見交換会では、都道府県での活動状況を聞き取りながら、ピアサポート活動のありかたの検討、提案を行った。

本年度も継続して実施する予定

支援内容	数	県(施設名)
意見交換会の実施	14	埼玉、三重、高知、岩手、奈良、鹿児島、長崎、山梨、熊本、群馬、鳥根、福岡、沖縄、香川
医療従事者向け研修会の実施	2	山口、岩手
ピア・サポーター養成研修会の実施	1	三重
テキスト等の資料提供	8	鹿児島、奈良、広島、青森、神奈川、茨城、福島、佐賀
情報提供	2	宮崎大学、石川県がん安心生活サポートハウス がんサロンつどいの場・はなうめ



■意見交換会の実施、医療者向け研修会の実施、ピア・サポーター養成研修会の実施  
■テキスト等の資料提供、情報提供

# 意見交換まとめ (令和2年度事業報告書)

- ・ 都道府県がん対策推進基本計画への記載

数値目標を設定している県は5県。記載されている内容は県により幅がある。計画に挙げたとしても具体策を提案するのが難しく、行政として推進しにくい。ピアサポートに関する意見が集約されにくく、ピアサポートに関するニーズが把握されていない。

- ・ 行政と医療従事者との検討

部会で定期的な検討を行っていたのは1県。行政・医療機関ともにピアサポートのイメージがつかないため、具体的な検討に至らない

- ・ マネジメント体制

養成研修を継続しているのは7県、フォローアップを行っているのは6県。養成にとどまり、以降のフォローアップや登録制度といった運営が実施されていないことは質を担保するうえで課題。

- ・ 行政とがん診療連携拠点病院との連携

がんサロンの活動について県内で情報共有の機会が少なく、養成されたピアサポーターが活用されていない。

- ・ 教育・研修体制整備

講師の確保が難しく、またファシリテーターができるピア・医療従事者が少ない。

# ピアサポートに関する課題（令和元年度事業報告書）

- 都道府県がん対策推進基本計画への明確な記載の必要性
- 行政と医療者との検討
  - 都道府県において行政と医療従事者が計画を策定し議論する場を設ける
  - 医療従事者に対する、ピアサポートの役割や活用の啓発
- マネジメントについて
  - 継続的な研修、計画的な養成
  - フォローアップ、登録制度を通じたピアサポーターの質の担保
  - 研修の質の担保
- 行政とがん診療連携拠点病院との連携
  - がんサロン同士の情報共有の場の設定
  - がんサロン内でのピアサポーターの活用
- 教育・研修体制の整備
  - 講師、ファシリテーターの育成・確保の必要性
  - 国、学術団体、患者団体が連携したトレーナー育成

# ピアサポートの養成・支援体制を考える

- **ピアの養成**

- 教育研修：1-3日程度の研修が多い

- **マネジメント**

- 登録・更新（質の担保の上で重要）
- 継続研修
- スーパーバイズ、フォローアップ
- 医療機関との調整（窓口の明確化）
- 医療者によるバックアップ（危機介入、燃え尽きの予防）
- 活動の場の確保： 拠点病院との連携

- **医療者・地域との協働**

- 県のがん対策推進協議会、部会の所掌



# ピアサポーターの養成

三者の協力が  
欠かせない



体験者

- ピアサポートへの理解
- 研修の受講
- 活動と振り返り、研鑽

ピアサポート  
の実現



医療者

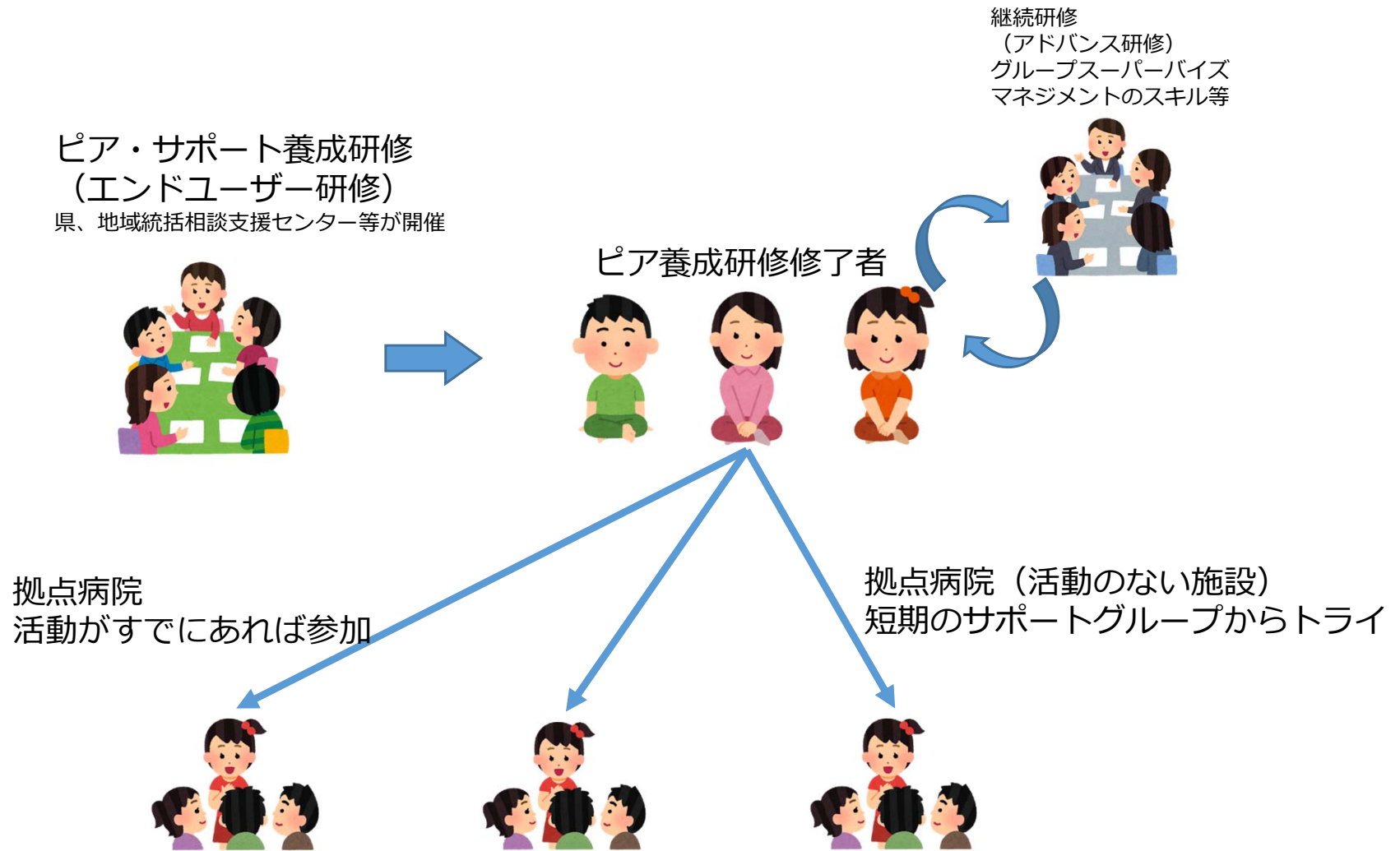
- ピアサポートへの理解
- 講師等養成への協力
- 運営体制への参加
- ルール作り
- 院内での目的・対象を設定
- 活動の場の提供
- 振り返り・スーパーバイズの実施
- フォローアップ研修への協力
- 医療者への周知

行政



- ピアサポートへの理解
- 地域のリソースをつなぐ
- 養成研修の企画
- 運営体制の構築（プール）
- ルール作り
- フォローアップ研修の企画
- 市民への広報

# 全体像



# ピアサポーター養成研修会 概要

- ・ バウンダリー（境界）の追加
- ・ 行政・医療従事者向けプログラムを追加。
- ・ 都道府県での実施を想定。

タイムテーブル（ 月 日 1日目）

開始	終了	所要時間 (分)	ピア (全体進行： ) 全体会場：	行政・医療者 (全体進行： ) 別会場：
9:30	9:40	10	開会のあいさつ オリエンテーション 【スライド0】	
9:40	9:50	10	アイスブレイク 【スライド1】	
9:50	10:20	30	ピア・サポートとは 【スライド2】	
10:20	10:30	10	〔休 憩〕	
10:30	11:30	60	ピアサポーターの役割と活動指針 【スライド3】 (A) ピアサポートを行うこと (B) 守るべきこと (C) 活動を振り返り、報告する	
11:30	12:10	40	相手を大切にすること、自分を大切にすること 【スライド3-2】 (D) バウンダリーについて (E) ピアサポーターが知っておくと良い情報	
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕	
13:10	14:10	60	自分の体験を語る（10人） 【スライド4】	行政や医療機関が支援できる こと、Q&A 【スライド5】
14:10	14:20	10	〔休 憩〕	
14:20	15:20	60	自分の体験を語る（10人）	行政や医療機関が支援できる こと
15:20	15:30	10	〔休 憩〕	
15:30	16:20	50	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点 【スライド6】 (がん情報サイトと結び付けて)	
16:20	16:30	10	1日目のまとめ（質疑応答）	

タイムテーブル（ 月 日 2日目）

開始	終了	所要時間 (分)	ピア (全体進行： ) 全体会場：	行政・医療者 (全体進行： ) 別会場：
9:30	9:40	10	オリエンテーション	
9:40	10:20	40	よりよいコミュニケーションのために 【スライド7】	
10:20	10:30	10	〔休 憩〕	
10:30	12:00	90	オリエンテーション 【スライド8】 ロールプレイ（4人組）	ピアサポートを実装するためには (グループワーク) 【スライド9】
12:00	13:00	60	〔昼休憩〕	
13:00	14:30	90	ロールプレイ（4人組）	ピアサポートを実装するためには (グループワーク)
14:30	14:40	10	〔休 憩〕	
14:40	15:20	40	グループファシリテートのために 【スライド10】 (代替：〇〇県でピアサポートを実践するために)	
15:20	16:00	40	行政や医療機関の役割について学ぼう 【スライド11】	
16:00	16:20	20	2日目のまとめ／ 質疑応答	
16:20	16:30	10	まとめ / 閉会あいさつ	



ピアサポーター養成研修  
会の様子  
(2020年2月9日・16日、  
三重県津市にて)

# 令和2年度 事業計画

①ピアサポーター養成研修会の開催

②都道府県、地域統括相談支援センターへの支援

(ニーズ把握・現状評価及び地域での取り組みの持続性の可能性等の検討)

- ・各都道府県、地域統括相談支援センターがピアサポートの養成や運営等が実施できる体制を整えられるよう支援

③ホームページでの情報提供

④拠点病院向けサポートグループ開催のための研修プログラムの開発

- ・がん診療連携拠点病院等の医療機関の中でピアサポーターを含むサポートグループ運営に必要な知識、技術を学ぶための研修会を実施する。



# がん総合相談に携わる者に対する研修事業 ホームページ



がん患者さんやご家族が安心して治療に望むためには、がんを経験した方同士が支えあう取り組みも重要です。わが国のがん対策では、ピアサポートを推進するための研修が実施されるなど、がん患者さん・経験者の方との協働を進め、ピアサポートをさらに充実するような取り組みが進められてきました。しかしながら、がん対策に関する行政評価・監視の結果報告書（平成28年9月総務省）において、研修が実施されていない都道府県があることや、がん相談支援センターや患者サロンへのピア・サポーターの受入れが十分に進んでいないこと等が指摘されています。このような状況から、がん対策推進基本計画（平成30年3月閣議決定）では、全体目標の1つである「専断を持って安心して暮らせる社会の構築」をきっかけ、その個別目標に「国は、ピア・サポートの実態調査、効果検証を行なった上で、3年以内に研修内容を見直し、ピア・サポートの普及に取り組む。」ことをあげました。ピアサポートについては日本サイコoncology学会が委託を受け患者団体等と連携し、実態調査及び研修プログラムの改訂等を実施することを通して、がん患者さんに対して提供できるピア・サポート体制を強化する取り組みを進めています。

<http://www.peer-spt.org/>

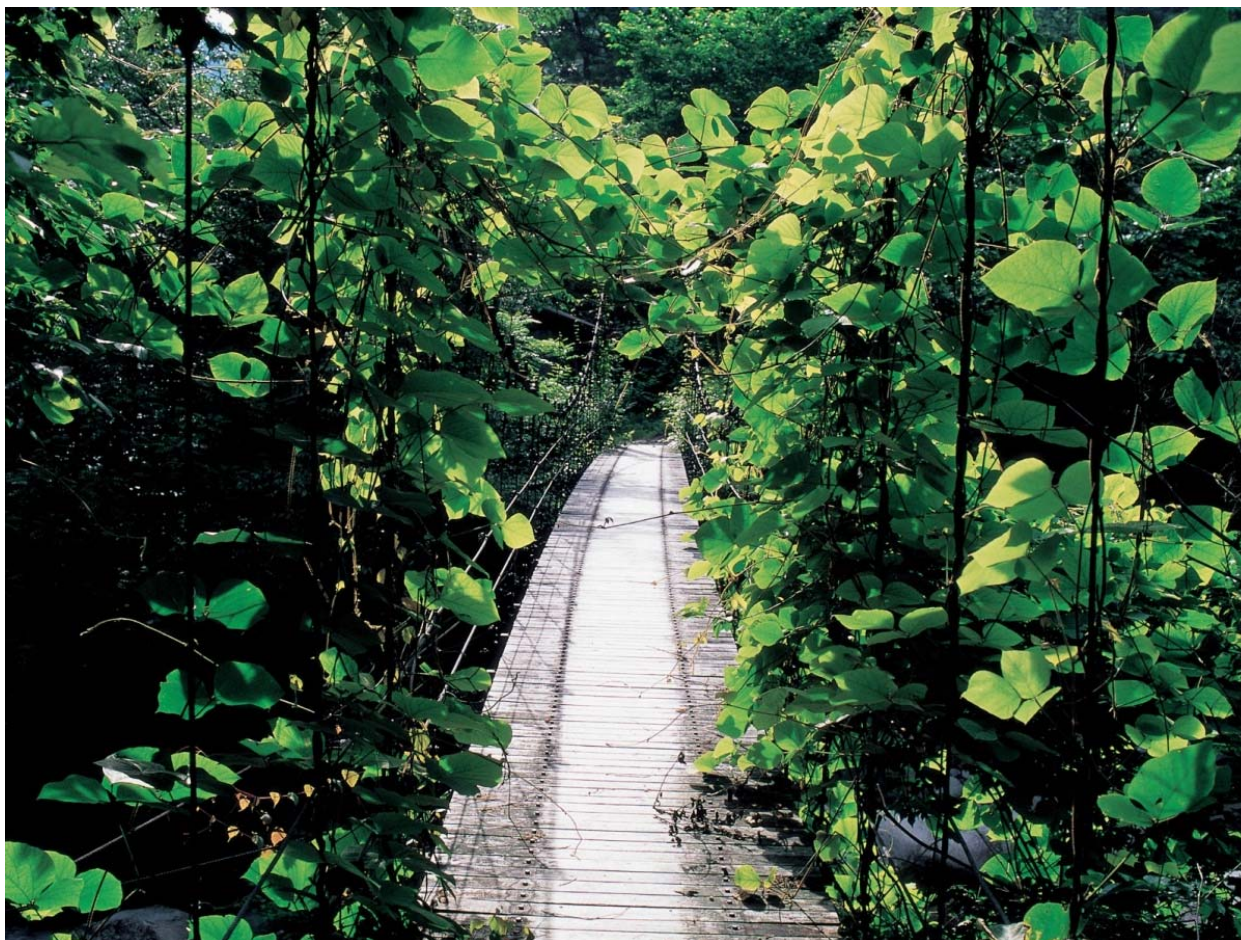
- ・ 事業で作成した資料提供  
（「ピアサポーター養成テキスト」、「がんサポートプログラム企画の手引き」等）
- ・ 事業活動の紹介
- ・ 各種問い合わせへの対応

【問い合わせ先】日本サイコoncology学会  
委託事業担当 坂井

[azusakai@east.ncc.go.jp](mailto:azusakai@east.ncc.go.jp)

[TEL:04-7134-6986](tel:04-7134-6986)

国立がん研究センター 先端医療開発センター  
精神腫瘍学開発分野内



ご静聴ありがとうございました  
ご意見・ご質問がありましたら

E-mail: [asogawa@east.ncc.go.jp](mailto:asogawa@east.ncc.go.jp)までお願いします